

## International Internship（長期海外インターンシップ）

担当教員： 高橋辰宏、主指導教員、プロジェクト教員 他

担当教員の所属：

開講学年： 3～5 年次      開講学期： 前期・後期      単位数： 2 単位      開講形態： 実習

開講対象： 博士課程 5 年一貫プログラムフレックス大学院

科目区分： 必修科目

### 【授業概要】

#### ・ テーマ

国外の大学・企業等の研究室において研究活動を行うことで、専門分野の更なる知識の強化を図るほか、海外の文化・社会・価値観を分析・理解する。コミュニケーション能力と研究能力を飛躍的に向上させ、グローバル人材として活動するための実践力を確実に習得する。派遣期間は 2 週間から 1 カ月間程度とする。

但し、2 週間から 1 カ月間程度の遠隔による国際共同研究を行うことで、派遣に代えることができる。

#### ・ ねらい

国外の大学・企業などと連携し、国際共同研究を実施する。国際共同研究を通じて専門分野への理解を深め、グローバル規模での最先端の技術と理論を知るとともに、世界の研究動向や教育・研究手法を習得する。また、異文化適応やグローバルコミュニケーション能力の向上を目指す。

#### ・ 目標

研修を通じて、最新研究の動向を把握し、実際に研究に取り組む。研究成果を英語で発表できる程度の能力を身に付ける。また研究課題に関して、英語でコミュニケーションを取りながら解決する能力を実践的に身に付ける。グローバルな視点に立って研究を進めるとともに、鳥瞰的観点から日本の研究状況なども的確に理解する。

異文化の中で共生することの意義と価値を理解すると共に、グローバル化の拡大、技術革新の急速な進展の中における有機材料の可能性、潜在的ニーズの分析、および事業化の検討を推奨する。また有機材料研究を通じた新たなシーズ創出にもチャレンジする。海外の文化・価値の差異を背景に、日本とは異なる嗜好性とチャネルの把握に努め、シーズとニーズのぶつかり合いを経験しながら、販路開拓や新規市場における製品開発について考察できる能力も身に付ける。

#### ・ キーワード

先端的研究、革新技術、異文化コミュニケーション、実践力、行動力、異文化適応、ディベート力、プレゼンテーション力、学術英語、国・地域分析

### 【授業計画】

#### ・ 授業の方法

オリエンテーションと派遣先の選定、事前の調整・準備の後に、派遣先の大学、企業の研究所・研究室において研究に取り組みます。ただし、遠隔による国際共同研究を行うことで、派遣に代えることができます。

海外の研究室に配属された場合は、受入研究室において、研究計画を基に研究を行います。基本的に研究グループに所属して取り組みます。

研究成果の発表は、共同研究先機関、山形大学のいずれかまたは双方で行います。

派遣を行う場合は、事前に各自で「海外旅行保険」に加入します。知財管理や特許など、派遣国の各種制度を十分に理解して、現地の法令を順守してください。

#### ・ 日程

第 1 回    ガイダンス

第 2 回    研究計画書の作成

第 3 回    派遣先研究室の決定と派遣前調査

第 4 回～第 12 回    連携大学、企業の研究機関・研究所における共同研究（海外）

第 13 回    研修内容および研究内容の整理

第 14 回    研究成果発表会の準備

第 15 回    研究成果発表会・まとめ

※内容および担当教員は変更する場合があります。

**【学習の方法】****・受講のあり方**

自ら主体的に研修に取り組むとともに、研究に関する課題発見とその解決に努めてください。研究内容については研究室の指導教員および共同研究先機関の受入担当者と相談の上で修正を行いながら進めてください。すべての研修が終了する際には、成果報告書を山形大学と共同研究先機関に提出します。

共同研究先機関の教員や同僚・研究員などと積極的にコミュニケーションを取ることに努め、現地の文化を理解するように努めてください。また研究に関するディスカッションを活発に行ってください。派遣を行う場合は、受入機関の定めたルール・規則を守ってください。

**・予習のあり方**

必要に応じて指示します。日ごろから研究に関連する情報を収集するとともに、現地の経済や社会に関する情報も合わせて収集・分析し、理解するように努めてください。研究室や地域社会のイベントや行事などには積極的に参加してください。

**・復習のあり方**

研究室の指導教員および共同研究先機関の担当者から指示を受けてください。

**【成績評価の方法】****・成績評価基準**

担当教員と共同研究先機関の受入担当者が評価します。

**・方法**

研修への取り組み姿勢と意欲、研究内容の独創性、研修における研究成果、研修成果報告書、研究成果発表会における内容と発表方法で総合評価。

**【科目の位置付け】**

博士課程5年一貫教育プログラムフレックス大学院では必修科目となります。

**【テキスト】****・随時、紹介します。****【その他】**